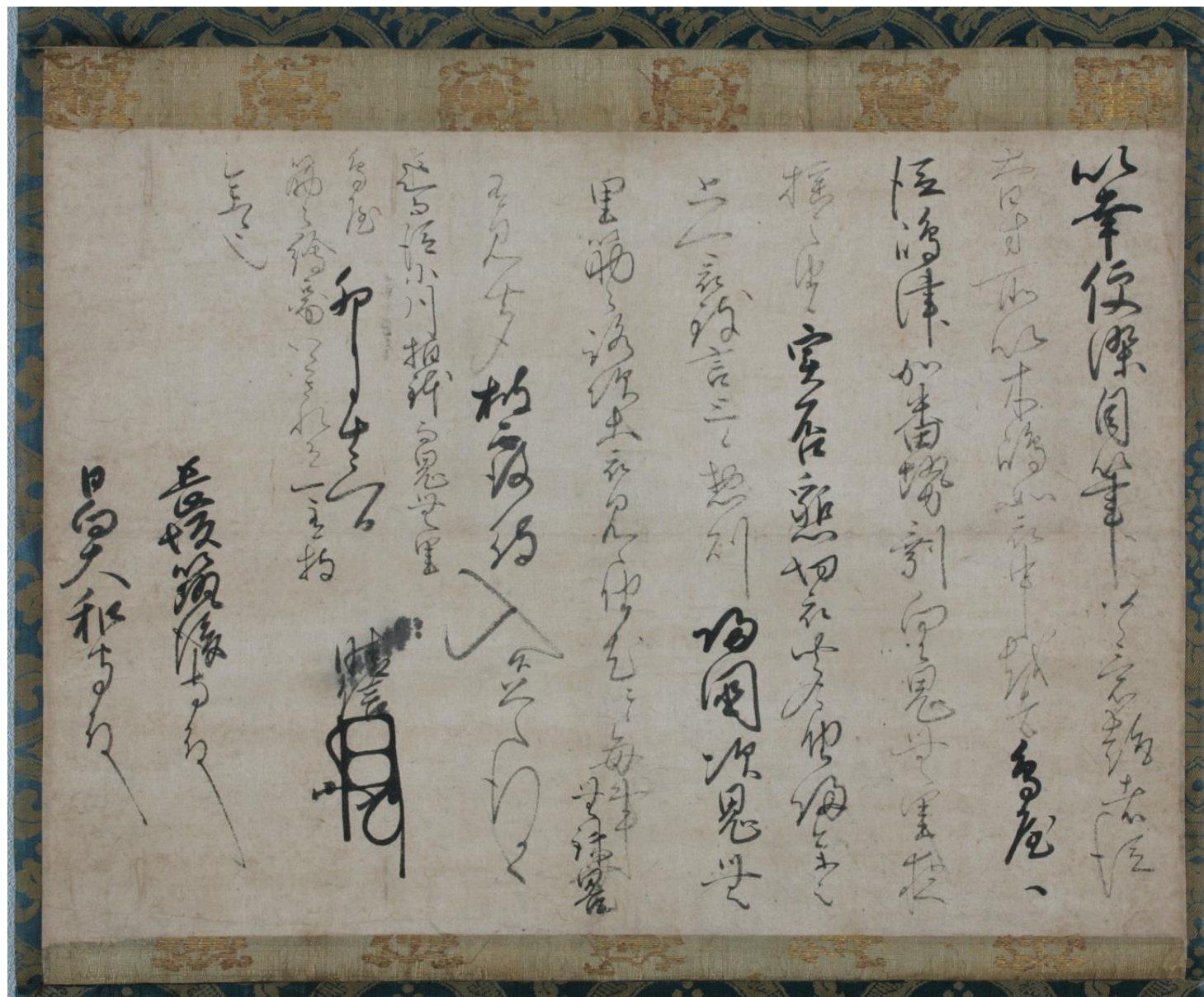


たけだしんげん じひつ しょじょう
武田信玄白筆書状

たけだしんげん みづか か しょじょう じゅう
武田信玄が自ら書いた書状として重
よう しりょう きなさすじ ふおん うご
要な資料です。鬼無里筋で不穏な動
けいかい ないよう かわ
きがあることを警戒する内容で、川
なかじま たたか はじ ま ころ
中島の戦いが始まって間もない頃に
か
書かれたものです。



もんじょ ないよう とりや ながのし なにあい てき ぞうきょう きなさ や
文書の内容は「鳥屋（長野市七二会）の敵が増強され、鬼無里に夜

しゅう じょうほう じじつ ちょうさ きなさ ほう
襲をかけてきたとの情報があるが、事実かどうか調査せよ。鬼無里方

めん どうろじょうきょう みきわ どうろ えず した ていしゅつ
面の道路状況を見極めよ。道路を絵図に仕立てて提出せよ。」という

あてさき しんげん じゅうしん
ものです。宛先は信玄の重臣・長坂筑後守（虎房）、日向大和守（是

しんげん しょじょう ゆうひつ ひと さくせい
吉）です。信玄の書状は、ほとんどが祐筆とよばれる人が作成しまし

しんげん じひつしょじょう みずか いし ちよくせつ つた いみ も
た。信玄の自筆書状は自らの意思を直接伝えるという意味を持ちます。

いみ ひみつ じこう つた そうぞう
こうした意味で、秘密にしたい事項について伝えたものと想像するこ

とができます。

しょじょう ねんごう こうじ ねん
なお、この書状は年号がありませんが、弘治3年（1557）にあてる

いっぱんてき だい かいめ かわなかじま たたか ぜんご ころ
のが一般的で、第2回目の川中島の戦い前後の頃のことです。

きなさ ち
「鬼無里」という地
めい か さいしょ
名が書かれる最初の
もんじょ
文書でもあるのじゃ



よ くだ
(読み下し)

以幸便染自筆候意趣者、從
大日方所以木嶋如被申越者、鳥屋へ
從嶋津加番勢、剩向于鬼無里夜
揺之由候、実否懇切被聞届、帰参之
上可被致言上候、惣別帰国次、鬼無
里筋々路次等被見届尤二候、毎事
無疎略

有見聞、披露待入候、恐々謹言

追而、從小川・柏鉢向鬼無里・
鳥屋

筋々絵図いたされ候て可有持
参候也

卯月十三日 晴信（花押）

長坂筑後守殿
日向大和守殿

